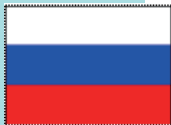




# 交流の輪は海を越え国境も超えて!!



4月29日から5月1日にかけてロシア沿海地方から青少年交流訪問団23名（大人14名、8歳～16歳の子どもたち9名）の皆さんが来島しました。

本町とロシアの交流は、日露戦争終結100年目にあたる2005年に町内の民間グループ（ひめぼたるの会 代表 佐倉眞喜子さん）が史実の勉強会を開催したことがきっかけとなり、今も子どもたちの絵画を通じた交流などを続けています。



ロシアを紹介する訪問団の皆さん（西ノ島小学校）

29日は「西ノ島町への訪問計画」に協力している国際交流員のミッシェルと一緒に西ノ島小学校を訪問し、お互いの国の歌を歌ったり、ゲームをして交流を深めました。

その後、船越地区にあるロシア兵の墓を訪れ、長年の墓を管理されており、ご自身もロシアに抑留された体験を持つ玉木武雄さん（船越）のお話を聞きました。全員が献花をし、手を合わせる姿を見て、今回の交流事業の中心となった佐倉さんが玉木さんに「大勢のロシアの人に会えてよかったですね。」と、おっしゃると「わしよりも、ここに眠っているロシア兵がどげに喜んだことか。」と語られた言葉が印象に残られたそうです。

翌30日、訪問団の皆さんはニコラ（西ノ島町



訪問団とゲームを楽しむ西小の子どもたち

観光協会）のガイドで焼火神社や国賀海岸などを周り、世界ジオパークの認定を目指す隠岐の雄大な自然に感動されました。

また、じょんじょん太鼓や民謡、踊り、三味線、抹茶など民間グループの方々の積極的な協力にも大変喜んでいただき、翌1日に島後へ渡られました。

今後このような形で異文化交流が益々深まることを願います。ご協力をいただいた皆様に感謝します。スパシーバ！（ロシア語でありがとう）

西ノ島町

観光協会

教育課



玉木さん、佐倉さんと記念撮影する訪問団の皆さん

おめでとうございます 湯浅 貞美さん

## 春の褒章受章

浦郷地区の湯浅貞美（85）さんが、平成25年4月29日に国より業務に精励し衆民の模範である人に授与される「黄綬褒章」を受章されました。

湯浅さんは、自身も障がい者であつてその障がいを克服され、昭和37年には西ノ島町身体障害者福祉協会を設立し、自らは会長に任命され、会長就任後50年が経過した現在においても会員の厚い信頼を受けながらその職責を全うしておられます。昭和42年には島根県（平成24年度からは町）より身体障害者相談員に任命され、現在まで障がい者の相談支援、救援活動等の支援活動を続けて来ら



れました。

また、平成元年から12年間、西ノ島町議会議員としても町政の発展のためご尽力されました。

湯浅さんは、障がい者福祉に対する認識が低い時代から今日まで、障がい者の方の先頭に立って障がい者福祉の向上にご尽力され、このたび、これらの功績が認められ受章に至りました。

長年のご尽力に感謝を申し上げますとともに、この度の受章を心よりお慶び申し上げます。

健康福祉課

## 海の男が山を制す！浜梶さん見事完走！



全長161.0km、累積標高差9,164m、制限時間46時間、出場者数およそ800人が富士山を一周する「ウルトラトレイル・マウントフジ」に初めて挑んだ浜梶富夫さんが、目標であった完走を見事果たしました。4月26日午後3時から28日午前8時26分までの41時間26分の激走でした。

秋の「ウルトラトレイル・デュ・モンブラン」への出場の前哨戦として出場しましたが、後半には途中棄権の連絡もあり、私たち応援団はあきらめていましたが、苦境を乗り切りゴールしました。

浜梶さん曰く、「富士山を甘くみていた。モンブラン以上の絶壁などが自分の足を動けなくした。」

「ゴールの際には、隠岐ジオパークの幟と国賀丸の大漁旗を持つ。」と言っておられた浜梶さんの夢が叶いました。ぜひ、モンブランでもゴールの際には大漁旗を持ってゴールすることを期待しています。

「海の男が山を制す！」の横断幕は、浦郷の今咲克己さんが無償で提供してくださり、また、東京国賀会佐藤会長ご夫妻も夜どおし応援するなど、多くの関係者に見守られ完走することができました。

レースは人生そのもののような感じがしました。良い時もあれば悪い時もある。一言で表現すれば正に「人間万事塞翁が馬」であると思います。

浜梶さん、本当におめでとうございます。

教育課